NIE実践報告

1．タイトル：同じ試合結果を報じる2つの異なる記事を読み比べる

2．学校名

新潟県長岡市立大島小学校

3．実践者名（代表者名）

草分　加寿子

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　33人

6．単元（本時の学習課題）名

情報の受け止め方を考えよう

7．目標（狙い）

同じ高校野球の試合について書かれた地域の異なる新聞記事を読み比べ、発信者の立場の違いや情報の受け手の違いにより表現が異なることを理解し、「質の高い情報」についての意見文を書くことができる。

8．評価の視点

・同じ事象を取り上げた2つの記事を読み比べ、書き手の意図を理解し、自分の考えを明確にもてたか。
・新聞記事を例に挙げながら、意見とそれを支える理由を明確に区別し書くことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「情報の受け止め方を考えよう」（教科書教材：学校図書）6時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（1）高校野球の試合内容を伝える地域の異なる2つの新聞記事を読み比べ、書き手の意図の違いに気づく。（1時間）
（2）一般紙とスポーツ新聞の違いを「読者の違い」「見出し」「記事の中心」などの観点から比較する。（1時間）
（3）一般紙の全国紙と地方紙について、読み手を意識した書き方の違いを視点にして比較する。（1時間）
（4）これまで分かったことを実際の新聞記事で検証し、解説文に表わす。（1時間）
※導入で使った新聞記事をもとに検証する。
（5）教科書教材の筆者の主張を受け、私たち読者が求めるべき「質の高い情報」について自分の考えを述べる意見文を書く。（1時間）
（6）子ども同士で意見文を読み合い、助言し合う。それをもとに、意見文を修正する。（1時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・配達地域によって、記事の内容を変えているなんて知らなかった。だから、今度から新聞を読むときには「新潟のことを意識して書いているのかな」と考えながら読んでみようと思う。
・試合の記事には目には見えない影の努力が書いてある。努力が伝わる質の高い情報だと思う。

12．成果と課題

・同じ試合について書かれた記事なのに、読み手の違いで表現の仕方が全く異なることに、子どもたちは声を上げて驚いていた。この驚きが「なぜ？」につながり、単元を貫いた課題解決の意欲を生んだ。導入で扱う新聞記事に、子どもの学習意欲を揺さぶる記事を用いたことが有効に働いた。
・日ごろ、新聞記事を読む際は、難しい漢字があっても全体の流れの中でおよその意味を考えるよう取り組んできた。本単元で、記事の大まかな内容を読み取ろうとする子どもの姿が見られた。しかし、内容を深く考えるためには、言葉を正しく理解する必要がある。国語辞典を傍らに置き活用する習慣が必要である。